

# 特許・実用新案登録紹介

1

## 発明の名称

真空ろう付け方法及び装置

## 発明の目的

異常時等の稼動状態に応じて雰囲気温度を自動的に制御する。

## 発明の構成

真空ろう付け室 8 内にキャリアフレーム 5 があるときにはろう付け設定温度にコントロールし、室内にキャリアフレームが到達しないときには、室内の雰囲気温度をろう付け設定温度より低い標準温度に制御する。更に、所定の待機時間が経過してもまだキャリアフレームが到着しないときには、室内を標準温度よりも低い低温保持温度に制御し、また低温保持温度の制御中には予熱室におけるキャリアフレームの状況を検出して、室内を標準温度まで昇温させておくことを特徴とする。

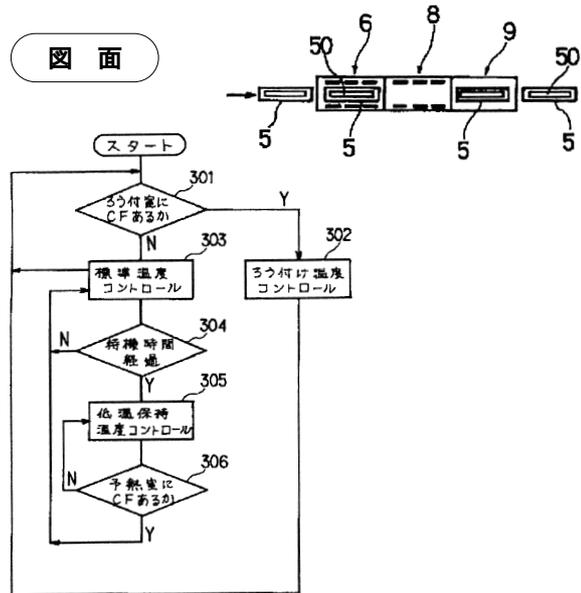
【公告番号】特公平 7 63838 号

【登録番号】特許第 2044122 号

【出願日】1991 年 3 月 1 日

【発明者】田中 保之 竹中 俊弘  
小嶋 毅

## 図面



2

## 発明の名称

計器装置の照明装置

## 発明の目的

別々の発光体を常に一定方式で発光させて使用者の不快感を解消する。

## 発明の構成

指針が回転する指示計器 2 と、指針の動きに応じて目盛りや記号等の表示部分を配設した計器盤 6 と、指示計器の指針を発光させる第 1 発光体 22 と、計器盤の表示部分を発光させる第 2 の発光体 110 と、第 1、第 2 の発光体と電源とを接続するスイッチ手段 301 と、このスイッチ手段の投入により第 1、第 2 の発光体へ電力が供給される際に、第 1 の発光体への電力供給時期に対して第 2 の発光体への電力供給時期を遅延させる遅延手段 304 とを備える。

【公告番号】特公平 8 14500 号

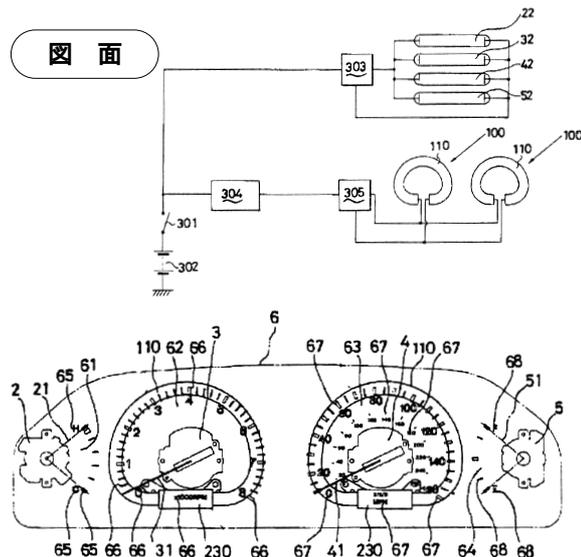
【登録番号】特許第 2133168 号

【出願日】1988 年 9 月 16 日

【発明者】加藤 三樹 宮崎 和彦  
渡辺 章博 萩里 安雄

(共同出願人：トヨタ自動車㈱)

## 図面



【発明の名称】

耐熱耐油性シール部材

【登録番号】特許第 2690003 号

【出願日】1992 年 4 月 22 日

【発明者】田中 規雄 富田 正広  
小田 尚吾

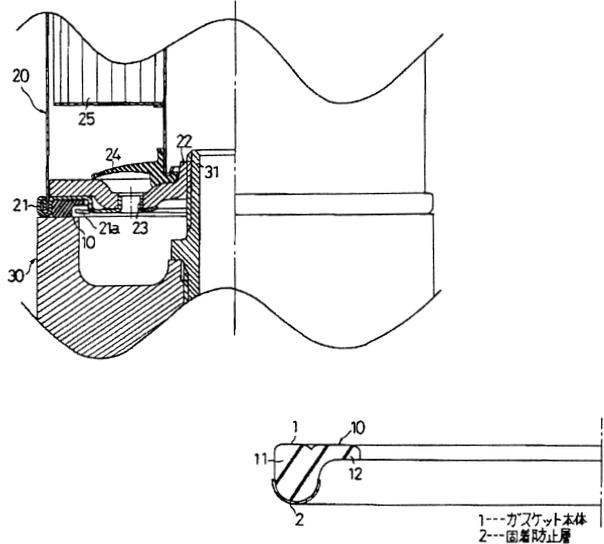
【発明の目的】

アクリルゴムのシール部材における相手材との固着を防止する。

【発明の構成】

アクリルゴムよりなるシール部材本体 1 の所定の相手材との接合面に、相手材との固着を防止する固着防止層 2 を形成する。この固着防止層 2 は、シリコン樹脂又はシリコンゴムよりなり、シール部材本体と固着防止層とが、シランカップリング剤によって化学的に形成されている。

【図面】



【発明の名称】

車両用乗員保護システムの故障検出装置

【登録番号】特許第 2692497 号

【出願日】1992 年 6 月 29 日

【発明者】近藤 晶

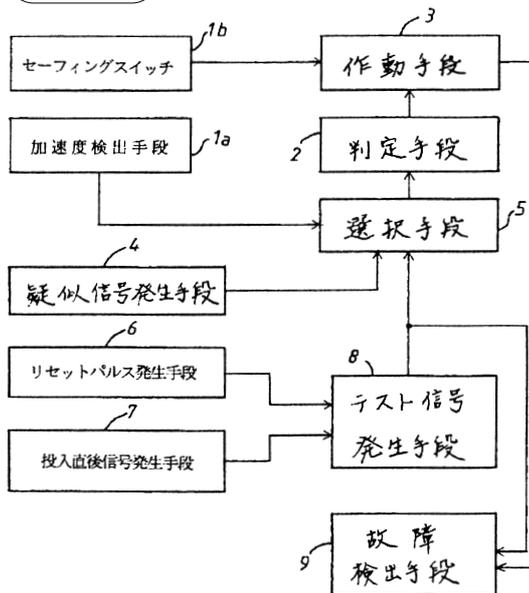
【発明の目的】

エアバッグの故障検出装置のリセット回路の故障等によるエアバッグシステムの誤動作を防止する。

【発明の構成】

加速度検出信号に基づき車両の衝突の判定信号を発生する判定手段 2 と、判定信号にตอบสนองして起動素子に電流を流入させる作動手段 3 と、キースイッチの投入に基づくリセットパルスと、投入直後を表す投入直後信号との双方の発生に基づいて発生されるテスト信号が付与されて加速度信号に代えて疑似信号を選択して判定手段に付与する選択手段 5 と、この選択手段へのテスト信号の付与に基づき、投入直後を表す時間の間、選択手段、判定手段及び作動手段の回路故障の有無を検出する手段 9 とを備える。

【図面】



5

発明の名称

車両用空調装置

発明の目的

フィルムダンパのスクリーン装置の摺動抵抗を低減する。

発明の構成

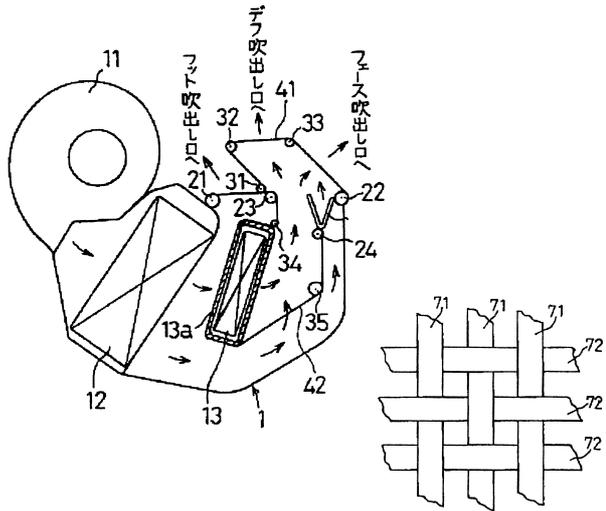
吸入口及び吹き出し口を連動する通風路を有するダクト状のケース 1 と、ケースに回転自在に支持される複数のローラー 21 ~ 24, 31 ~ 35 と、通気開口を有してケースに内設されるとともに前記ローラの回転によりケースに対して摺動して通風路内の送風経路を変更するスクリーン 41, 42 とを備え、スクリーンはケースに摺接する織布層 7 を含み、織布層は、摺動の方向に延在する縦糸 71 と、厚さ方向の表面高さが縦糸より低い横糸 72 とを有する。

【登録番号】特許第 2679597 号

【出願日】1993 年 11 月 17 日

【発明者】井上 美智 小坂 淳  
漆原 勝 加藤 文男  
東原 昭仁 伊藤 公一

図面



6

発明の名称

エンジン用ノック制御装置

発明の目的

適切なノック判定レベルを短時間で自動調整する。

発明の構成

ノックセンサからの信号のうちノック検出のために有効な代表値 V を検出し、この代表値 V の頻度分布における実質標準偏差 SGM を検出し、頻度分布における累積 % 点 VP を検出し、エンジン回転数が高くなるほど大きな変数  $\mu$  を設定し、変数  $\mu$  と実質標準偏差値 SGM と累積 % VP とに応じてノック判定レベル VKD を、 $VKD = SGM^\mu \times VP$  により設定し、代表値 V とノック判定レベル VKD とに応じてノックの発生を検出してノック制御因子を調節することを特徴とする。

【登録番号】特許第 2730215 号

【出願日】1991 年 3 月 18 日

【発明者】榊原 浩二 山田 裕彦

図面

